

# 広報福島

発行 福島地区小学校長会  
責任者 会長 丹治 秀 樹  
編集 同 広 報 部

## 【巻 頭 言】

### 校長が守るもの

福島市立北沢又小学校長 菅野 智

かつて先輩から「学校には、守らなければならないものが3つある」と教わりました。その1番手は言うまでもなく「心や命」です。ただ、それは「子どもの心や命」であり、子どもが心を傷つけたり命を落としたりしないようにするという認識でした。

しかし、管理職になって、子どもの心や命を守ることはあたり前のことですが、それと同じくらい守らなければならないのが「教師の心や命」であると強く感じます。

近年、教師の病休や休職、退職が増加しています。中には心が病んでしまって退職する教師もいます。「耐性がない」「心が弱い」などという人もいますが、教師自身の問題だけで片付けられることでないという状況です。

教師は子どもたちのために、毎日全力で指導に当たっています。しかし、人とかかわる仕事ですので、どんなにがんばっても必ずしも思うようにいくとは限りません。しかしそんな時、今の時代は間髪を入れずに激しい非難が浴びせられます。私が経験した非難（担任への電話）は「だから経験のない新採用は嫌だったんだ。本当に今年はずれだ。あと3ヵ月がまんするから担任をかえてもらうよう校長に言う」でした。この先生は、新採用1年目で、経験値はもちろん他の先生方と比べれば低いですが、常に子どもたち一人一人に寄り添い丁寧に指導をする、本当に熱意のある一生懸命の先生でした。しかし、涙をぐっと堪えてこの電話の対応をした後、その場で崩れ落ち号泣してしまいました。この時「なぜここまで言われなければならないのか」という憤りとともに、管理職は、毎日全力でがんばっている先生方の心や命も守らなければならないのだと強く思ったのです。

教員の常識は非常識などと言われた時代もありましたが、今はそんなことは絶対にありません。学校（校長）は、自信をもって理不尽な非難には堂々と立ち向かっていきましょう。

### 校長会の役割とは

福島市立清明小学校長 佐藤 浩昭

校長に昇任すると、「校長会」の一員として名を連ねることになります。県の小学校長会は大正15年に発足し、令和7年に100周年を迎えます。

昇任1年目、隣接校の校長も一緒に昇任したことから、よく連絡を取り合っていました。「先生、教えて」と言われても、分からない者同士が話しているのですから、すぐに解決に結びつく訳ではありません。しかし、「分からないのは自分だけではないんだ」と安心したり、「そこ、調べてみよう」と糸口が見つかったりしたものでした。

数年経つと、新たに昇任された先生から「教えて」と連絡がきます。十分に理解している訳でもないのに、教えている自分がいました。

また、他地区から異動してきた先生からは「福島ではどうなっているの」という連絡もありました。このように、互いに聞き合える仲間をつくることも校長会の役割の一つと考えています。

その思いや考え方を広めていくのが「広報福島」です。広報が届くとすぐに目を通し、アンダーラインを引き、ファイリングしています。年に4回（過去には5回）数年分のすてきな宝物ができています。ところがなぜか、昇任以前の平成26年第2号から綴じられています。

さらに「たねまきうさぎ」という冊子（60～80ページ）も何冊か保有しています。「あすを拓く創造と知恵の実践集」とタイトルが記された冊子には、校長室・学校だより、いい話、学び合いなどの資料が掲載されています。巻頭言に「本地区小学校長会が誇る宝物の一つです」とありました。改めて読み返すと、すごい資料、実践例が掲載されています。このように、校長としての在り方や考え方、役立つ方法、内容等の校長文化を伝承していくことも大切な役割の一つと考えています。

「一人職を大切にせよ」よく言われる言葉です。校長も一人職ですね。お互いに大切にしていきたいと思います。

## 「強み」を生かして

福島市立野田小学校長 小川 尚子

本校は、児童数691名、教職員数51名の大規模校である。人数が多いということは、それ自体が「強み」であり、団結したときの強さは計り知れないほど大きな力となる。

去る10月28日に、市教育委員会研究委託による「基礎的読解力を基盤とした学力向上」を目途とした研究発表会を開催した。コロナ禍により、各学年1学級のみでの公開であったが、そこに至るまでに、全学級において、指導助言者を招聘しての授業研究会を25回開催した。指導助言の先生方の懇切丁寧で的確な指導により、教員の研修意欲や授業力が高まったことは言うまでもない。また、学級数が多い強みを生かし、授業を公開しない学級において、当日の指導案を用いた授業を行い、検討を繰り返した。それにより、授業者は自信をもって授業に臨むことができた。さらに、授業者をアシストすべく、教職員一人一人がそれぞれの強み（特技・特性）を生かし、教材の作成や花壇の整備、校内美化等に努め、一丸となって研究発表会を迎えることができた。

加えて、今年度は市小学校陸上競技大会やマーチング全国大会においても最高賞を受賞することができた。これもひとえに、強み（専門性）を生かした指導とそれに応えた子どもたちのがんばりによるものである。

多くの児童や教職員、保護者がいる大規模校において、学校を動かすこと人を動かすことは容易なことではないが、本校の教職員は「やるときはやる！」の精神で、全力で子どもたちと対峙している。また、保護者や地域も学校教育に大変協力的である。校長の役割とは、学校の「強み」を最大限に生かした目標（方針・方略）を示し、子どもたちのよりよい成長のために、共に力を尽くしてくれる教職員や保護者、地域の方々に心から感謝の意を伝え、子どもたちの成長を共に喜び合うことであることを日々実感している。

## 再編 新生川俣小学校

川俣町立川俣小学校長 小野 真教

「川俣町に生まれ、川俣町で育ち、川俣町出身であることに誇りと自信をもち、川俣町を担う」

このような子どもたちを育てるために全教職員一丸となって取り組みます。

これは、学校再編を終え、開校式、入学式、職員会議、学校便りで保護者と地域の皆さん、先生方に伝えてきたことです。校長として、町の教育行政基本方針を受け、こういう子どもを育てたいという願いであり、目標として掲げたことです。

そのためにやるべきことを10項目考えました。

- ①川俣小学校を軌道に乗せる
- ②学力の向上
- ③幼・小・中・高の連携
- ④地域との連携
- ⑤町の歴史と文化を学ぶ教育
- ⑥新しい時代の教育
- ⑦心身の健康
- ⑧命を守る教育
- ⑨不祥事防止
- ⑩351人の子どもを全教職員で指導  
(学校は徳を育てるところ)

目標に向けて邁進しようと思っていましたが、現状認識が甘く、学校運営上の問題や生徒指導上の問題の対応に追われる日々となりました。

さて、川俣町は、令和4年度に福田小学校、富田小学校、川俣南小学校、川俣小学校、飯坂小学校が再編され、新生川俣小学校となりました。川俣町は小規模の学校がほとんどで、地域と学校が一体となり、地域に根ざした学校として5校が存在していました。子どもを地域で見守り育てる、その核となっているのが学校でした。しかし、5つの学校が一緒になると、問題が数多く起き、苦情や要望等を訴える保護者との面談を繰り返し行ってきました。地域の皆さんからのご意見も相当数頂戴しました。それだけ、保護者や地域の皆さんの学校への期待が大きいということです。

期待に応えきれず1年目が過ぎましたが、やっと家庭や地域の実態を把握できてきたところです。令和5年度こそ、当初の目標達成に向けて、全教職員が一丸となり学校運営をしていきたいと思えます。

## やる気と笑顔

福島市立余目小学校長 花輪 忠康

講師だった頃、「早く教諭になりたい」と思っていた。憧れと羨望を抱いていた。教諭の先生方と同じく学級担任をさせていただいたものの、当時は講師の授業研究会はなかったし、研修会に出かけることもなかった。私に与えられた校務分掌は、合唱部指導とプール管理だけだった。教諭になったら子どもたちや学校のために、ああしたいこうしたいと思いついて描いていた。

しかし、いざ教諭になってみると、思った以上に大変だった。学校が替わると環境も変わる。小規模校では校務分掌も多い。さらに初任研、小教研、PTA活動、スポ少ソフトボール部指導…。「立場が変わると、こうも違うものか」と思った。それでも自分に任せられる仕事があり、やりがいもあり楽しかった。当時は、今ほど学校は忙しくなかったと思う。先輩が食事や飲み連れて行ってくれたり、教頭先生がバンド仲間に入れてくれたりした。保護者も新米教師を温かく見守ってくださり、遊びにも誘っていただいた。私が孤立しないよう、みんなが見守り、励まし、心配して声を掛けてくださった。お陰で何とかやっていけた。

現在、本校教員は初任者、2年目、5年研、指導委員、ベテランと経験が様々である。先生方は互いに支え合い、子どもたちと関わりながら学習指導・生徒指導・学級経営に努めている。忙しい現場ではあるが、時折、職員室から相談する会話や笑い声が校長室に聞こえてくる。それがとてもうれしい。先生方が元気であり、自分の仕事にやりがいをもって取り組んでいると感じるからだ。

「やっている 姿を感謝で 見守って 信頼せねば 人は実らず」という言葉がある。校長として、先生方が頑張っていることを笑顔で見守り、励まし、感謝の言葉を掛けることが、先生方のやる気と笑顔につながると思っている。そうした先生方のやる気と笑顔は、自ずと子どもたちのやる気と笑顔につながっていると信じるからである。

## “わ”の醸成

福島市立杉妻小学校長 小松 浩行

本校は「福島県教育委員会キャリア教育推進事業」において「キャリア教育モデル校」に指定された。子どもたちが現在の学びを将来の夢に結び付けて、自己実現を図ることができるようにしなければならない。

現職教育では、キャリア教育で育む「基礎的・汎用的能力」という資質・能力について教職員で共通理解し、目指す子ども像を「他者と協働し、逆境にくじけず、あきらめることなく前に進む子ども」として、「子どもを育てる」実践研究を行っている。キャリア教育の視点を生かして授業をデザインし、特別活動を要として各教科等において、育成を目指す資質・能力や基礎的・汎用的能力に視点をあてて実践に取り組んでいる。

特別活動では、集団での合意形成、見通し、行動、振り返りのまとまりのある実践、振り返りによる自己理解等を通して、学びの有用感や必要感を体得できるように、特に学級活動を中心に実践を積み重ねてきた。その中で育んだ資質・能力を各教科等で生かしながら、子どもたちが自分の思いや願いを実現していくための授業の充実を図っているところである。

「子どもを育てる」学校経営で大切なことは、このような取り組みに教職員が一丸となっていることだと考える。ベクトルを同じくし、互いの授業を見合って切磋琢磨し、目指す子ども像に向かうことが重要である。

私はこのために、3つの“わ”の醸成を中心に据えた経営を目指している。それは、「チーム和ーク・ネット輪ーク・フット環ーク」である。温かい人間関係(和)を築き、何かあったら相談(輪)し、すぐに動いて環境を改善(環)する。そんな教職員集団であれば、子どもたちも同じように変わってくると考える。このことが組織力アップにつながり、「子どもを育てる」ことにつながっていくのではないだろうか。

## プチ旅行のすすめ

福島市立鎌田小学校長 関口 和夫

私は、常にどこかに出かけたいなと思っている。今までも定期的にいろいろなところに出かけてはいたが、単身赴任で勤務した学校のALTの行動をきっかけにプチ旅行の仕方が変わった。どこが変わったのかは長くなるので省くが、コロナ禍のため人込みや泊付きは避けながらも、日帰りのプチ旅行を続けている。出かける場所のジャンルは特に決めず、神社仏閣、自然探勝、博物館・美術館、プチ登山などなど。どこでも出かけ何でも見る。まずは、出かける場所とメインポイントを決め、そこを目指す。その途中で発見したものや、近くにあるものとはりあえず行ってみる。以前は、案内板が出ていてもスルーしていたこともあったが、今はできるだけくまなく訪れる。もう二度と来れないかもしれないという思いを合言葉に。

装備品は、トレッキングシューズにリュックサック、御朱印帳にダムカードホルダー、そして入浴セット。一人で始めたプチ旅行も、妻の退職に伴って二人に。まずは福島県内制覇を目指して。最初のうちは有名どころから。そしてだんだんと知る人ぞ知る場所へ。福島市、県北、県南、浜通り、そして会津や奥会津へ。

いつの間にか福島県内はほぼ制覇。福島県の知られざる魅力を再発見。探せば探すほどにたくさん見どころ、遊びどころ、食べどころが。

行動制限の緩和に伴って、宮城・山形・茨城・栃木など福島近隣県へのプチ旅行も再開し、行動範囲を拡大中。4月からはプチ旅行からさらに行動範囲を広げて。目指せ東北全制覇。そして…。

みなさんもこんなプチ旅行はどうですか？まずは、身近な福島市内から。そして福島県内へ。新しい福島県をいろいろ再発見できるかもしれませんよ。

もし、素敵な情報があれば、どうぞご一報を。

## 今年度の活動を振り返って

福島地区行財政部長

福島市立矢野目小学校長 古田 幸裕

今年度の福島地区小学校長会行財政部は、人事の反省や要望活動の根拠となる調査研究、さらには、今年度から加配措置が始まった教科担任制に関するニーズ研修を実施し、各学校の課題解決の一助となるよう活動を推進してきました。

以下に調査や要望等の概要をお示しします。

### 【令和4年度人事の反省】

- 優秀な人材を確保するための採用の在り方
- 管理職の働き方改革及び処遇改善
- 効果的な特別支援教育が実施可能となる人的環境の充実

### 【行財政調査Ⅰ 教職員配置等調査】

- 復興推進加配をはじめとした加配措置の継続
- 教育相談充実のためのSCやSSWの切れ目のない長期の派遣

### 【行財政調査Ⅲ 教育施策実施状況調査】

- 学力向上や不登校対応に大いに効果がある少人数教育の継続
- ICT環境の整備及びICT支援員の増員
- 特別支援学級の編制基準の見直し

### 【特別調査 大震災・原子力災害や感染症の影響調査】

- 健康安全や学力向上のための教員業務支援員の継続配置
- 防災教育や放射線教育の指導充実に向けた震災遺構の研修の位置づけ

### 【行財政部ニーズ研修会】

- 小学校教科担任制の実施のメリット
- 小学校専科加配教員の配置状況や教科担任制の取組事例の共有化

行財政部の活動は地区中学校長会や県小学校長会と連携しながら活動を進めています。今後も各校長先生方の学校経営に寄与することができるよう努めてまいりますので、引き続き行財政部の活動へのご協力をよろしくお願いいたします。

### 編集後記

朝、昇降口前で子どもたちとあいさつを交わしておりますと、日に日に太陽の光のあたたかさが増しているのがわかります。元気な声と陽のぬくもりが相まって、わが心に火が灯ります。広報福島第4号発刊にあたり、玉稿を賜りました校長先生方に心より感謝いたします。ありがとうございました。

福島市立鳥川小学校長 島田 祥司